

ささえる力

Power

力

「ささえる力 Power」は、情熱と誇りをもって働く「人」にスポットをあて水資源機構の仕事を紹介するコーナーです。

中宿橋

感謝

～信頼関係が作り出す武蔵水路～

昭和30年代の急激な水需要増大に対応するため建設された、利根川と荒川を結ぶ“武蔵水路”も完成から約50年が経過した。この間、約450億m³の水を東京都や埼玉県の都市用水等として導水し、経済発展に貢献してきた。一方、水路の老朽化等による通水能力の低下や水路周辺の都市化に伴う浸水被害の軽減、首都直下地震への備えなど、様々な課題も生じていた。このため、武蔵水路では平成22年から改築工事を実施、本年3月に竣工を迎える。

この武蔵水路改築事業で、工事部門を担当した古田に話を聞いた。

Profile

利根導水総合事業所 武蔵水路改築建設所 第一工事課

古田 学 Manabu Furuta

前職の（独）森林総合研究所森林農地整備センターを退職後、平成21年4月に水資源機構に入社。最初の配属先である大山ダム建設所（大分県）では、ダム建設工事に伴う付替道路工事の設計や試験湛水業務等に携わる。前任の利根川下流総合管理所（茨城県）では、東日本大震災に伴う災害復旧工事を担当し、平成25年10月より現職。

信頼関係の構築

水路の建設を行ったおよそ50年前は、周辺はほとんどが農地であったが、その後、周辺の宅地化が進み工場等の立地も増えるなど、都市化が進んだ中での改築工事となった。

事業の実施にあたっては、地域住民の方々のご理解とご協力が不可欠であるため、工事前には説明会を開催することも多いが、このような場ではすでに決まったことを一方的に説明するという形になりがちだ。ところが、武蔵水路改築事業の計画策定段階では少し違った方法で進められたという。「武蔵水路では、地域の方々の声を工事の施工計画や周辺整備などに反映できるよう、住民参加型の会議をワークショップ形式で行い、地域の皆さんとの意見交換の場を設け、その声を計画に反映させていく方法により進めました。」と古田。元々、地域住民の武蔵水路に対するイメージの中には、地域を分断する“地域に恩恵のない施設”とのイメージもあっ





たというが、次第に、武蔵水路の重要性や内水排除の効果などを認識していただく一助となり、信頼関係の構築が進んでいったという。

調査と説明の繰り返し

古田が実際に担当した「中宿橋」の改築工事を例に、地域との関係を聞いた。駅にも近い県道に架かる橋梁であるため、その周辺には多くの方が居住しており、工事の実施による振動や騒音だけでなく、通行規制や交通渋滞の発生など地域に大きな影響を及ぼす工事だ。古田は「品質の確かなものを安全に作り上げることは当然として、一人でも多くの地域の方々に「我慢したから良いものが出来た」と感じていただけるよう工事を進めていくことを第一に考えました。」と思いを教えてくれた。



中宿橋周辺の交通規制

日頃からの地元の方々とのやり取りの中で、工事の影響の大きさに比例して注目度も高い工事と判断し、毎年行っていた通常の工事説明会とは別に中宿橋の改築工事に特化した説明会が行われた。説明会では、「さらに我慢を強いるのか？」という厳しい意見も出たが、ご意見やご質問を整理すると、個々の方々の道路利用状況が工事によってどの様に変化し、それに対し機構はどの様に対応するのか？ということ懸念されているのだということが分かったという。

説明会前から現地の調査は行われていたが、説明会での懸念を踏まえ「地域の方々から指摘される前に課題を把握し対応策を提案できるよう、自分がこの地域に住んでいるつもりで現地確認を行いました。」と、再度、丁寧な現地調査が行われた。これが功を奏し、この後行われた20箇所を超える地域の方々への個別説明では、皆さんが感じているそれぞれの懸念について、ほとんど



説明会の様子

すべてにおいて対応策まで含めた説明が出来たという。地域の方々の懸念やご意見を踏まえた施工計画を作り上げた成果だろう。地域の方々から「そこまで考えてもらっていれば大丈夫だ。」「わざわざ説明に来てもらい申し訳ない。」とのお言葉までいただき、逆に恐縮したこともあったと振り返ってくれた。

何気ない一瞬

これだけの事前準備を行っても、地域の方々からの指摘で初めて判明した課題もあり、反省は尽きないという。「結果的に大きなトラブルや苦情もなく、一連の対応が一定の成果を上げたものと考えられます。ただ、本当にトラブルや苦情の種が無かったのかは分かりません。地域の方々が無駄を重ねて下さった結果だとも言えます。」そんな古田が工事現場を歩いていると、地域の方々とはわいもない会話を交わすことがあるという。「この何気ない一瞬に、地域の方々に信頼され心を許していただいているのかな、と感じることがあります。」と頬を緩ませる。達成感から来るものだろう。

ついに竣工を迎える武蔵水路改築事業。平成22年からの工事期間中、どれだけの方々に「我慢したから良いものが出来た」と思っていたただけだろうか？事業に関わられた全ての方に感謝！



水路内見学会でいただいたメッセージ

家庭では一児の父である古田。何をしているときが一番楽しいかとの質問には、「子供の寝顔を隣で見ているとき」と、即答でした。

